

同窓会に集う意義、いま改めて 噛みしめる

山中・山東東京同窓

会懇親会

2022年実行委員長 松田 忠 (S57 山東 32回 榎音会)

「すべてがコロナに規定されていた」とも言うべきここ3年間の日本でしたが、同窓会活動においては特にその影響が深刻で、母校の同窓会まつり（山形）が2020年・21年続けて中止となったのをはじめ、ほとんどの学校においてもここ3年の間にリアルな懇親会が持たれたことはないと聞いております。ところが我々が東京同窓会は、コロナ禍の最も深刻な2021年夏、開催日が緊急事態宣言の間の規制がないわずかな時期に当たっていたことも幸いし、山東31回・五六会の先輩方の強い意志のもと、ホテル椿山荘東京での初の懇親会開催をみごと成就されたのでした。

こうなると、翌22年にはわれわれ山東32回・榎音会に開催の期待がかかることとなります。ところが、五六会の先輩がコロナ以前から都合3年に渡る準備期間を持たれていたのとは対照的に、榎音会は前年夏の段階になってもメンバー集めも捗らぬ状況。コロナの先行きも不透明でもあり、開催時期を総会と分離し、秋季の11月6日に設定いたしました。開催年の22年に入ってもコロナ禍は続き、ようやく10名ほどの規模となった実行委員会の会合もリモート頼りの状況が続きました。加えて難航したのがジュニア幹事となるべき山東47回・東凌会メンバーの

勧誘でしたが、開催二つ月ほど前にようやく同会の竹田（旧姓後藤）美智子さんに参加の回答を頂き、最終的には5名の東凌会員が参加してくれました。

会場のホテル椿山荘東京、感染対策など、ほぼ前年に倣った形での進行となりましたが、今年は来賓の須貝英彦校長、高橋一夫同窓会長をはじめ恩師の先生方に山形から会場にお越し頂くことができました。また、前年に続き会場の提供を快くお引き受け頂いた伊勢宜弘先輩（共一会＝藤田観光社長）はじめ会場スタッフの皆様、実行委員を辛抱強くサポートして頂いた同窓会役員会の皆様、そしてご来場・ご協賛頂いた全ての皆様、厚く感謝申し上げます。

歓談タイムの皆様の笑顔と歓声に触れ、またお見送りの際に皆様から暖かい労いの声を頂戴するにつけ、同期の皆様とともにこの会を準備してきた苦労が本当に報われた思いがいたしました。また後日、先述のジュニア幹事・竹田さんからメールで頂きました次の言葉が、そのまま同窓会活動の意義を語っているように感じられましたので、引用させていただきます。

「私は、ジュニア幹事になれて本当に良かったです！同期との繋がりが復活し、恩師にも再会でき、素晴らしい先輩方とも交流でき……山東を卒業したことは自分の誇りであり、これからも母校の名に恥じないように頑張っている生きていこうと思いました。今でもその思いは日々の活力になっています。」

2023年は継世会・天成会の皆さんに幹事をお願いしております。7月17日（月・祝）に椿山荘でまたお会いしましょう！

（下：当会旗を背に2022年懇親会参加者の集合写真）

